

2021年5月25日

## 2020年度 決算概要

ソニー学園の決算数字の詳細は、2020年度計算書類に記載しているが、以下、決算の概要について説明する。

### 学校法人会計について

学校法人会計における主な財務諸表は、下記の3つの計算書類である。

- 資金収支計算書 ・ ・ ・ 計算書類（資料 B 1～3 頁）  
企業会計のキャッシュフロー計算書に近いもので、当年度の学校法人の活動に付随する全ての資金の動きの内容を明らかにすることを目的としている。
- 事業活動収支計算書 ・ ・ ・ 計算書類（資料 B 10～12 頁）  
企業会計の損益計算書に相当し、学校法人の当年度の事業活動収支の状況を明らかにすることを目的としている。  
事業活動を①教育活動収支、②教育活動外収支、③特別収支の3つの活動区分で構成している。  
企業会計と異なる点は、企業会計の損益計算書にはない「基本金組入額」が表示されている点である。これは、学校経営を永続的に遂行していくことを前提に、必要な資産（土地、建物、機器備品、図書等）を継続的に保持するために必要な金額を示している。
- 貸借対照表 ・ ・ ・ ・ ・ 計算書類（資料 B 15～17 頁）  
企業会計の貸借対照表に近いもので、学校法人の当年度末の財政状態、すなわち保有する資産と負っている債務の状態を表示している。

以下、事業活動収支計算書より、順を追って決算の概要を説明する。

#### (1) 事業活動収支計算書

事業活動収支は、①教育活動収支、②教育活動外収支、③特別収支の3つの活動区分で構成され、各活動区分の収支差額の合計となる基本金組入前当年度収支差額を計上したうえで、前年度からの繰越収支差額と当年度の基本金組入額・基本金取崩額を調整し、翌年度繰越収支差額を計上している。

##### ① 教育活動収支

教育活動収入は、学生生徒等納付金、及び私立大学退職金財団交付金の増加等により、予算比10百万円増の14億87百万円となった。同支出は新型コロナウイルス禍のなか、本学独自の修学支援給付金50百万円の特別支出対応を行ったが、全学的費用節減活動によりその原資を賄い、さらに人件費19百万円減少などにより、予算比27百万円減少の14億61百万円となった。その結果、教育活動収支差額は、2016年度から5年連続収入超過（黒字）の26百万円を計上した。

##### ② 教育活動外収支

マイナス金利政策が継続される中、債券投資の受取利息・配当金は予算比2百万円増加の90百万円の収入超過（黒字）を計上した。

##### ③ 特別収支

特別収入は、情報機器整備費補助金2百万円を計上し、特別支出は図書館の不要視聴覚資料（VHSテープなど）や不要図書などの除籍により20百万円の支出、その結果18百万円の支出超過（赤字）となった。

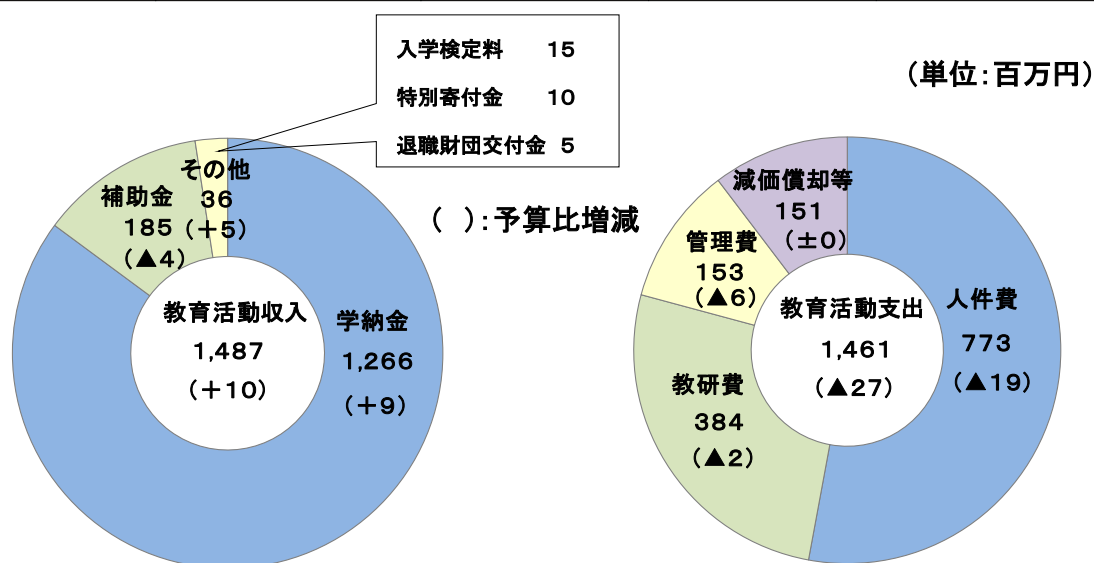
上記①+②+③により、基本金組入前当年度収支差額は、98百万円の収入超過となり、2013年度から8期連続の収入超過（黒字）を達成した。

この基本金組入前当年度収支差額に前年度繰越収支差額7億38百万円と基本金取崩額11百万円を加算し、当年度基本金組入額10百万円を控除した結果、最終的に翌年度繰越収支差額は、8億37百万円を計上した。

下記表は事業活動収支を予算と実績を対比させたものである。また、収入・支出の内訳については、円グラフで表示した。なお、括弧内の数値は予算比の増減を示している。

(単位:百万円)

		2020予算	2020実績	差額
	学生生徒等納付金	1,257	1,266	▲ 9
	経常費等補助金	190	185	5
	その他	30	36	▲ 6
①	教育活動収入	1,477	1,487	▲ 10
	人件費	792	773	19
	経費	545	537	8
	減価償却費等	151	151	0
②	教育活動支出	1,488	1,461	27
③=①-②	教育活動収支	▲ 11	26	▲ 37
④	教育活動外収支	88	90	▲ 2
⑤=③+④	経常収支	77	116	▲ 39
⑥	特別収入	0	2	▲ 2
⑦	特別支出	20	20	0
⑧=⑥-⑦	特別収支	▲ 20	▲ 18	▲ 2
	予備費	2		2
⑨=⑤+⑧	基本金組入前収支	55	98	▲ 43
⑩	基本金組入額	▲ 10	▲ 10	0
⑪=⑨+⑩	当年度収支	45	88	▲ 43
⑫	前年度繰越収支	778	738	40
⑬	基本金取崩額	26	11	15
⑭=⑪+⑫+⑬	翌年度繰越収支	849	837	12



## (2) 貸借対照表

2020年度末の総資産は108億12百万円で、前年比73百万円の増加となった。一方、純資産(資産総額－負債総額)は99億17百万円で、前年比98百万円の増加となる。

資産・負債・基本金等の当年度末と前年度末の比較による主な増減要因は以下の通りである。

### <資産の部>

#### ◆有形固定資産

(当年度末27億46百万円 前年度末28億54百万円 1億8百万円減少)

新規に取得した資産として57百万円を計上したが、図書資産の処分及び既存資産の減価償却が進んだことで資産残高は減少した。

新規に取得した主な資産は以下の通りである。

○建物	(総額 38百万円)
7号館2階女子トイレ改修工事	13百万円
4号館471教室・和室エアコン工事	10百万円
4号館462教室改修工事	6百万円
1号館127・128・129教室エアコン工事	4百万円
6号館イベントホールエアコン工事	2百万円
○教研・管理備品	(総額 16百万円)
3号館322教室AV改善工事	3百万円
3号館341教室AV改善工事	3百万円
5号館キャンパスレストラン備品	3百万円
1号館141教室AV改善工事	2百万円
○図書	(総額 3百万円)

#### ◆特定資産

(当年度末38億59百万円 前年度末38億42百万円 17百万円増加)

##### ○第2号基本金引当特定資産

(当年度末20百万円 前年度末10百万円 10百万円増加)

将来取得する設備・備品の取得にあてる為の引当である。

##### ○退職給与引当特定資産

(当年度末4億39百万円 前年度末4億32百万円 7百万円増加)

退職給与引当金要支給額の増加によるものである。

◆その他の固定資産

(当年度末 30億27百万円 前年度末 33億58百万円 3億31百万円減少)

○有価証券(長期)

(当年度末 30億8百万円 前年度末 33億33百万円 3億25百万円減少)

新規購入を6億円実施し、3億円の早期償還。本年度末時点で1年以内に満期を迎える債券6億8百万円を短期有価証券に振替えた。

(※)長/短期の有価証券と特定資産へ割当てた有価証券を合計した総額は、前年度末で73億円、当年度末で75億円となり2億円の増加となった。

◆流動資産

(当年度末 11億80百万円 前年度末 6億85百万円 4億95百万円増加)

○有価証券(短期)

(当年度末 6億8百万円 前年度末 1億円 5億8百万円増加)

満期償還による1億円減少に対し、長期有価証券の項で説明した短期有価証券への振替6億8百万円増加により差引5億8百万円の増加となった。

○未収入金

(当年度末 9百万円 前年度末 33百万円 24百万円減少)

退職者に係る退職金財団からの交付金のうち、未収となっている金額の減少である。

<負債の部>

◆固定負債

(当年度末 4億39百万円 前年度末 4億32百万円 7百万円増加)

○退職給与引当金

(当年度末 4億39百万円 前年度末 4億32百万円 7百万円増加)

退職給与引当金要支給額の増加である。

◆流動負債

(当年度末 4億56百万円 前年度末 4億88百万円 32百万円減少)

○未払金

(当年度末 63百万円 前年度末 84百万円 21百万円減少)

取引先への支払(3月末は未払金、4月末支払)減少である。

○前受金

(当年度末3億87百万円 前年度末3億94百万円 7百万円減少)  
 新入生から受領した学納金で、修学支援新制度により入金タイミングが2021年度にずれ込んだことによる減少である。

<純資産の部>

◆第1号基本金

(当年度末64億53百万円 前年度末64億64百万円 11百万円減少)  
 新規取得資産の組入額以上に、資産除却による取崩額が発生した。

◆第2号基本金

(当年度末20百万円 前年度末10百万円 10百万円増加)  
 将来取得する設備・備品への基本金組入れである。

◆翌年度繰越収支差額

(当年度末8億37百万円 前年度末7億38百万円 99百万円増加)  
 事業活動収支計算書の項を参照。

総資産、負債及び純資産の内訳は以下の通りである。なお、括弧内数値は当年度末と前年度末の比較による増減を示している。

		(単位:百万円)	
<b>固定資産</b>	9,632 (▲ 422)	<b>負債の部</b>	895 (▲ 25)
		<b>固定負債</b>	439 (+ 7)
		<b>流動負債</b>	456 (▲ 32)
<b>有形固定資産</b>	2,746 (▲108)	<b>純資産の部</b>	9,917 (+ 98)
<b>特定資産</b>	3,859 (+ 17)	<b>第1号基本金</b>	6,453 (▲ 11)
<b>その他の固定資産</b>	3,027 (▲331)	<b>第2号基本金</b>	20 (+ 10)
<b>流動資産</b>	1,180 (+ 495)	<b>第3号基本金</b>	2,500 (±0)
		<b>第4号基本金</b>	107 (±0)
		<b>翌年度繰越収支差額</b>	837 (+ 99)
<b>資産の部合計</b>		<b>負債及び純資産の部合計</b>	
	10,812 (+ 73)		10,812 (+ 73)

(3) 資金収支計算書

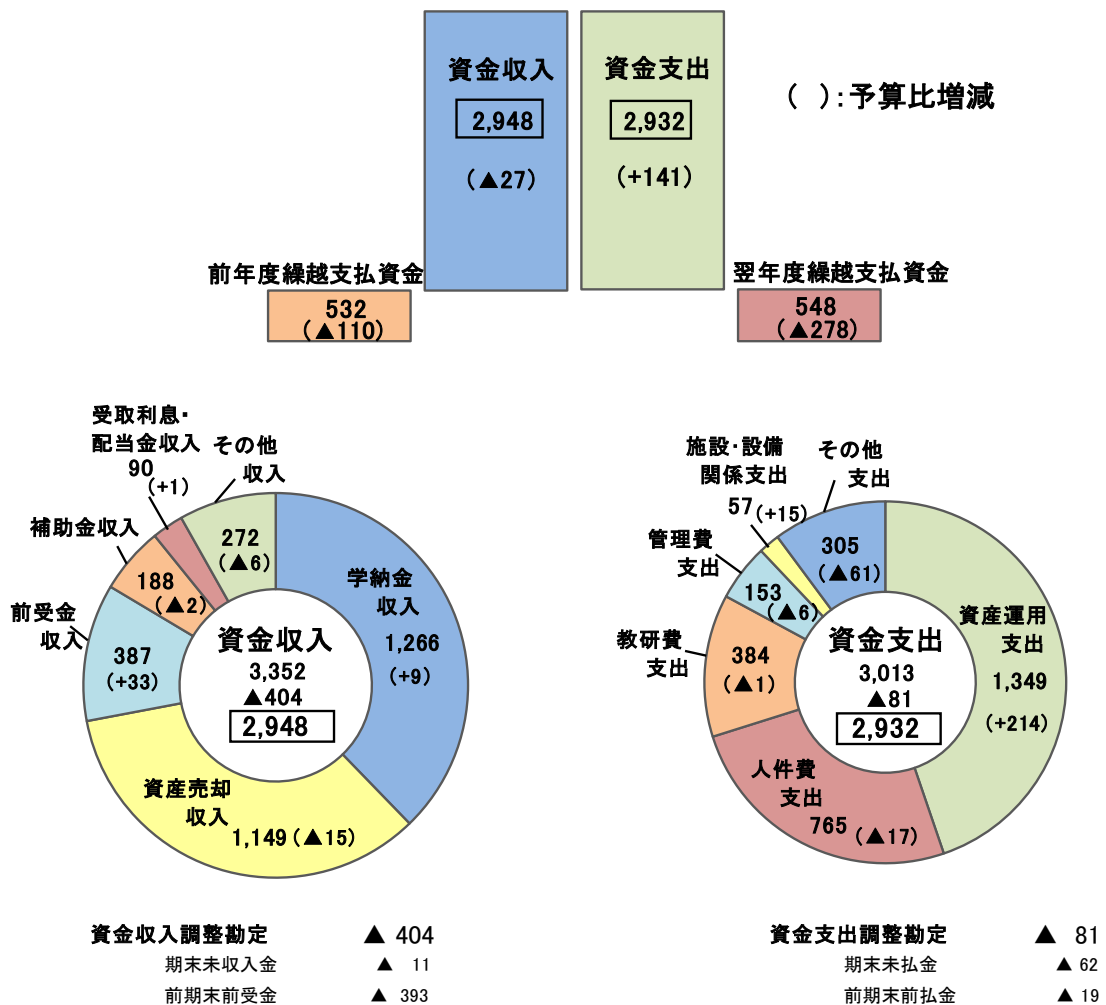
本年度の資金収入の総額は29億48百万円、資金支出の総額は29億32百万円で、収支は16百万円の収入超過となり、その結果、翌年度繰越支払資金は、5億48百万円となった。

以下、収入の部と支出の部に分け、予算比で増減要因の説明をする。

収入の部：総収入は予算比27百万円減少の29億48百万円で、主要因は、預り金受入収入26百万円減少である。

支出の部：総支出は予算比1億41百万円増加の29億32百万円で、主要因は、有価証券購入支出2億16百万円増加である。

(単位:百万円)



#### (4) 資金の運用状況

##### ① 有価証券の保有状況

2020年度末の有価証券保有高は75億円で、前年度末比2億円増加した。償還4銘柄7億円に対する入替を含め、7銘柄9億円を購入した。

なお、保有有価証券75億円のうち39億円は特定資産(退職給与引当、減価償却引当、第2・第3号基本金引当)として引当を行っており、残る36億円(短期で6億円、長期で30億円)を有価証券として貸借対照表に表示している。

##### ② 有価証券の購入と売却・償還

有価証券の購入は債券を7銘柄9億円、償還は早期償還3銘柄3億円、満期償還1銘柄4億円、合計4銘柄7億円となり差引き2億円の残高増加となった。

##### ③ 受取利息・有価証券売却差額

受取利息収入は90百万円であり、年平均利回りは1.2%であった。

以上